

## 福住、日本の水

今日も蛇口をひねると水が出てくる。水は一点のくもりも陰りもない。けいこう灯が反射して、キラキラと輝いている。

福住は川の上流付近にある。川にある岩は大きくてゴツゴツしているし、流れも急だ。この地域では、水を使った行事がある。氷を二月ごろに作り、それを保存して夏に出すという祭り、「氷祭り」だ。私は部活があるの  
で二月は行けなかったけれど、七月は毎年行っている。氷室と呼ばれるわらでつくった小屋のようなところに氷を保存し、夏に出して学校まで運ぶ。その氷はかき氷になって屋台で売られる。氷が何キロ残っているかなどのクイズもあって、私の中で楽しい行事となっている。

でも、この氷も年々とける量が多くなり、残っている量が少なくなってきたというそう。

天理市立福住中学校 二年

岡本 珠希

水があるからこそできる行事がこの村ではできて幸せだと思つたし、ずっと続いてほしいと感じた。

こんな水に恵まれた福住だが、冬は使えなくなることもある。この地域は夏は涼しいが冬の寒さは厳しい。だから、水道管の中で水が凍ってしまい、出てこなくなるのだ。朝、水を飲もうとして水が出てこなかったときの悲しさや苛立ちには表現できない。だから、タオルを水道にまいてとけやすいように工夫している。冬はしょっちゅう

「水はたいせつやなあ。」

という会話がきこえてくる。私も本当にそうだと思う。でも、普段水を使っているときは何も感じないので、なくなると普通だと思つていたことが有難く感じるんだと実感することができた。

うちの家は農家などをやっていないので水にふれる機会が少ないと思っただけで、日常のふつとしたことができると分かった。冬は寒いのでつい温水が出るまで水を流してしまふけれど、水は限りある資源なので節水し大切にしていこうと思っただ。冬は一番水について考えられる時期なので大変だけいい季節だと思う。

世界では、汚れた水を飲んで病気になる人がいるというテレビ番組を見たことがある。私はそのテレビを見て、日本は水に恵まれ、きれいな水がたくさんあるので幸せなんかなと思っただし、日本の水を分けられないのかなと考えたりもした。その水を浄水して、きれいな水に変えて配っている人がいると聞いて自分のことではないのにうれしくなった。地球は水の星なのに、なんでこんなに差が生まれるんだらうと不思議に思っただ。これからの国も発展していき、きれいな水が全員飲めるようになったらいいなと思う。

水は、蛇口をひねるとでてきて、簡単に手を入れることができる。だからこそ、人はありがたみを忘れ、無駄使いをしてしまふんだ。

と思う。私も一回止めるのは面倒だからとだしっぱなしにしてしまったり、ペットを洗うときに大量の水を使ったりしてしまふ。でも今回の体験を基に少しずつ水を使う量を減らしていき、大切にしていきたいと思っただ。地球は水がたくさんあり、心配しなくてもあると思っただ。でもこのまま使い続ける未来にはなくなってしまう可能性がある。なので、未来にも今有る冷たくて透明な水を受け継いでゆき、水問題を考えられる余裕のある自然豊かな国を目指すため、節水などの努力をしていきたいと思っただ。水は、液体、固体、気体と姿を変え、昔から私たちを救ったり、冷やしてくれたり、楽しませてくれたりしている。その恩を、今度は私達が返す番ではないだらうかと輝く水面を見ながら思っただ。









